

「おとを さがして あそぼう」(2時間扱い)

～題材4『みの まわりの おとに みみを すまそう』における(ア)^{*}の指導事項を中心とした音楽づくり

*音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(ア)

学習のねらい

- (1) 声や身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付くとともに、発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付ける。
- (2) 音色、呼びかけとこたえを聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得る。
- (3) 声や身の回りの音に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組み、声や身の回りの音への意識を高める態度を養う。

教材や教具

●学校の中で聴こえる音

音楽室や教室から移動して音を聴きに行くことが難しい場合は、事前に学校内の様々な場所で録音しておく。

●「おとを さがして あそぼう」音楽授業支援DVD

●ペアの表現を録音・録画するためのタブレット端末など

主に扱う音楽を形づくっている要素

ア 音色

イ 呼びかけとこたえ

評価規準

知識・技能（知・技）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<p>①知 声や身の回りの様々な音の特徴について、それらが生み出す面白さなどと関わらせて気付いている。</p> <p>②技 発想を生かした表現をするために必要な、設定した条件に基づいて、即興的に声や音を選んだりつなげたりして表現する技能を身に付けて音楽をつくっている。</p>	<p>思① 音色、呼びかけとこたえを聞き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、声遊びを通して、音楽づくりの発想を得ている。</p>	<p>態① 身の回りの音に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に音楽づくりの学習活動に取り組もうとしている。</p>

学習の流れ

ステップ1 楽器の音や、学校の中で聴こえる様々な音の特徴に気付く。

- 1 指導者が楽器を見せずに音を鳴らし、どのような楽器の音か考える音当てクイズをする（指導者の鳴らす楽器の音に注目して音を聞く）。



これから、ある楽器の音を聴いてもらいます。
どんな楽器か想像しながら聴いてみましょう。

ポイント

- 初めに聴かせる楽器はトライアングルやエナジーチャイムなど、金属製で音が長くのびる楽器のほうが子供にとって分かりやすいです。どのような楽器か想像する場面では、楽器の材質（金属、木、プラスチックなど）や楽器名などのヒントを出すとよいでしょう。

- 2 様々な鳴らし方でトライアングルの音を聴き、音の感じを言葉で表す。



これから先生が鳴らすトライアングルの音を言葉で表してみましょう。どんな言葉で表せますか。

なるほど。実際の音が伝わってくる、いい表現ですね。ほかの皆さんはどうのように表しましたか。

私は、1回目は「ちーーん…」、2回目は「りりりりりり」と聴こえました。



私は、1回目は「りーーん…」、2回目は「じりりりりり」って表しました。



3 1分間、目を閉じて耳を澄まし、「学校の中で聴こえる音」を聴き取る。聴こえてきた音をメモしたり声で表したりする。

ポイント 

- ・音楽室で身の回りの音が聴こえにくかったり、子供が表す音の種類が少なくなったりしそうな場合には、場所を移動して聴く時間を設けたり、音楽授業支援DVDを活用したり、指導者が事前に学校内で録音した音を聴かせたりすることも考えられます。

評価 

①知 ワークシートの記述内容

や聴こえてきた音を声で表現している行動観察から評価します。

<ワークシートの例>

がっこうの なかで 聴こえる おとを みつけましょう。	
みつけた おと	どのように 聴こえたか ことばで あらわそう
<れい>とびらのと	がらがら、ぱたん
えんぴつでかくおと	しゅしゅしゅ、しゃしゃしゃしゃ
ふえのと	ぴ――、ぴっ
とりのなきごえ	ちゅんちゅんちゅんちゅん
ボールをけると	ぼん、ぼばん

ステップ2 見付けた音を声で表現しながら友達に紹介し、いろいろな声の表現の発想を得る。

1 友達とペアになって、見付けた音を紹介し合う。



それでは、さっそく聴こえた音を友達に紹介してみましょう。
「どんな音か」、「どのように聴こえたか」を友達に分かるように
声で伝えてください。
たくさん見付けた人は、とっておきの音を二つ選んで紹介しましょう。

私は鉛筆で書く音を見付けたよ。
「しゅっしゅっしゅっ」って音に聴こえました。



いいね。私は、教室の扉を動かす音が聴こえました。
「がらがらがら……、たんっ」って音で表しました。



ポイント

- ・どのような音か（歩く音、ボールを蹴る音など）どのように聴こえたか（こつこつ、どーんなど）を、声での表現も交えて紹介できるよう、子供の実態に応じて、交流前に学級全体で確認しながら伝え方を例示することも考えられます。

2 友達の表現で「いいな」「まねしたいな」と思った音の表現について、学級全体で紹介し合う。

Aさんは「鉛筆で書く音」を見付けました。
声で表すと「しゅっしゅっしゅっ」です。
私はそれを聴いて「しゅっ」という声が本物の音にそっくりでいいなと感じました。



Bさん



Bさんもすてきな発見をしましたね。
それではAさん、見付けた音の表現をもう一度聴かせてくれますか。みんなも声でまねしてみましょう。

ポイント

- ・友達の表現を紹介するときは、「どのようなところがいい」「まねしたい」と思ったか、ひと言添えるよう促します。
- ・模倣や声遊びをする際は、ステップ3でのペアやグループでの活動に生かすことができるよう、つなげ方の例を示します。

<模倣する順番の例>

- ①友達の表現を紹介した人 → 音を見付けた人 → 学級全体
- ②音を見付けた人 → 友達の表現を紹介した人 → 学級全体

<ペアやグループで声遊びをする例>

- ・紹介した音を2～4種類使って、反復したりつなげて表現したりする。
 - ①Aさんの音 → Bさんの音 → Aさんの音 → Bさんの音
 - ②Aさんの音 → Bさんの音 → Bさんの音 → Aさんの音
 - ③Aさんの音 → 全員でまねる → Bさんの音 → 全員でまねる

評価

思① 子供が友達に紹介し合う様子や声で表している様子、それらの活動の際の子供の発言内容、ワークシートの記述内容から見取ります。

態① それぞれの活動で興味をもっているかを見取りつつ、音探しや友達とペアになって紹介し合う様子から、音楽活動を楽しんで主体的・協働的に関わっているかを継続して見ていきます。

ステップ3 紹介した音を使って、友達と呼びかけ合いの声遊びをする。

1 ステップ2の活動を思い起こし、ペアやグループで互いの声を聴き合いながら紹介した音で声遊びを楽しむ。

1) ペアやグループでステップ2で見付けた音を使って声遊びをする。

＜例＞

- ・「しゅっしゅっしゅっしゅっ」 → 「がらがらがら……、たんっ」
- ・「しゅしゅしゅしゅしゅしゅ・」 → 「たーーん、がらっがらっ」

2) 学級全体で声の表現をリレーし、それぞれの表現を聴き合う。

＜例＞

- ・「しゅっしゅっしゅっしゅっ」 → 「がらがらがら……、たんっ」 → 「ひー ひっ」 → (続ける)

3) ステップ1で見付けた音を使って、学級全体でいろいろな呼びかけ合いの声遊びをする。



「ちーーーーーん」と「りりりりりっ」の2種類の音を使って呼びかけ合いをしてみます。まずは交代で何度か繰り返してみましょう。

＜例＞

- ・「ちーーーーーん」 → 「りりりりりりりりりりっ」
- ・「ちーーーーーん」 → 「りりりりりりりりりりっ」



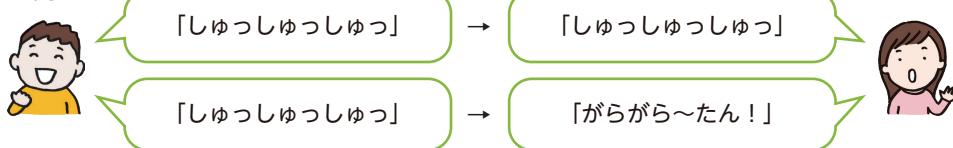
今度は、まねしてみましょう。そっくりまねしてもいいし、ちょっと強さや速さを変えてまねしてもいいですよ。

＜例＞

- ・「ちーーーーーん」 → (少し弱くして) 「ちーーーーーん」
- ・「りりりりりりりりりりっ」 → (少し強くゆっくりにして) 「りりりりりりりりりりっ」

2 ペアやグループでいろいろな呼びかけ合いの声遊びをする。

＜例＞



3 ペアでいちばん気に入った呼びかけ合いの表現を発表し、気付いたことや感じたことを伝え合う。

＜例＞

- ・「しゅっしゅっしゅっしゅっ」 → 「がらがらがら……、たんっ」
- 「しゅしゅしゅしゅしゅしゅ・」 → 「たーーん、がらっがらっ」
- 「しゅしゅしゅしゅ」 「しゅしゅしゅしゅ」

＜例＞の再生



(タップまたは読み取り)

AさんとBさんの声は「しゅっ」や「がらがら」っていう音の感じをよく表していて、いいなと思いました。
短い音と長い音を交替させていたところがとても面白かったです。



ポイント

- ・時間が許せば全てのペアの発表を行い、子供の感想などを生かしながら価値付けるようにします。全てのペアの発表が難しい場合には、タブレット端末で録画する指導を事前に行うことができれば、ペアで表現している様子をそれぞれが録画し、指導者に送付することもできます。
- ・声の感じや言葉の発音、呼びかけとこたえの聴き取りやすさなどを価値付けの規準として設定し、それらが分かりやすいペアから指名して発表を行うと、ほかの子供も気付いたことや感じたことを発言しやすくなります。

評価

②技 **ステップ3**では、見付けた音の特徴を生かしながら、呼びかけとこたえで表す条件に基づいて、即興的に見付けた音を組み合わせて声で表現しているかどうかを見取っていきます。即興的につくった表現を学級全体に紹介し合う場だけで評価するのではなく、指導者はできる限り子供たちのつくっている様子を観察したり、ペアどうしで互いの表現を聴き合う場を設定して感想を伝え合う機会を設けたりすることが大切です。これにより、どう表現すればよいか戸惑っている子供に対し、指導者が支援したり友達が援助したりすることができます。

4 本学習を振り返り、身の回りの音について気付いたことをワークシートに書き、伝え合う。

〈例〉

わたしは、みのまわりにたくさんのおとがかくれていることにきづきました。よ~くみみをすましてみると、しづかにしていてもいろいろなおとがきこえているのだとわかりました。
そんなおとを、こえでまねっこすることはむずかしかったけれど、こえのだしかたやつよさなどをくふうするとおもしろいなとおもいました。

ポイント

- ・本学習の最後に、**ステップ1**の③で行ったように、目を閉じて、もう一度身の回りの音を1分間聴いて音を探してみることもできます。最初のときよりもたくさんの音に気付くことができる子供が増えていると思います。
- ・何を書いたらよいかなかなか思い付かない子供がいる場合は、本学習での活動を時系列で振り返りながら、活動したこと、学んだことを簡単に板書して視覚的にイメージできるよう支援します。

評価

態① 子供の発言内容やワークシートの記述内容から、子供が興味をもつて主体的・協働的に友達と学ぶことができたかどうかを見取ります。

評価ガイド

本学習は、学習指導要領のA表現(3)音楽づくりの(ア)^{*}の指導事項に当たる内容です。身の回りにある音の聴取から音楽表現へとつなげていく活動は、子供の生活の中にある音環境に興味・関心をもつきっかけにもなります。ステップ2やステップ3では、聴き取った音を基に声で模倣したり、友達と呼びかけとこたえ（音楽の仕組み）を生かして短い表現を即興的につくったり、つくった表現にこたえたりすることを通して、声の表現について様々な発想を得ていくことにつながります。

Aと評価される子供は、例えば声の出し方や強さ、長さなどを工夫して複数の声の表現を考え、友達とペアで呼びかけ合う際に、ペアの友達の表現をよく聴いて、「このようにつなげてみたい」「このような表現がつながると面白い」などの考えをもっている状況だといえます。

*音楽づくりのア、イ及びウの各指導事項の(ア)

他題材や他学年との関連

本題材では、身の回りの様々な音に気付き、呼びかけとこたえの音楽の仕組みを生かして声遊びを行います。その経験を生かし、2年生「なきごえをつかって あそぼう」では、学校へ行くまでの道や子供が住む家の周りの生き物の鳴き声に注目し、簡単な音楽をつくる学習につなげていきます。また、声遊びで得た様々な声の出し方や強さ、長さなどといった表現の発想は、4年生「言葉でリズムアンサンブル」や、6年生「ボイスアンサンブル」の学習における声の表現に生かされています。